

学校経営のポイント

“将来の夢”と“今日の学び”を育む段階的取組み

若井 彌一

総数約 1801 万人。昨年比約 17 万人減。22 年連続減少。総人口に占める割合 14.1%。わが国の本年 4 月 1 日現在における子どもの数(15 歳)に関する主要な数値、すなわち量的に見た子どもの現状である。

教育は、この子どもたちに「人格の完成をめざし」(教育基本法第 1 条)、国民としての基礎的な諸力を獲得させていく質的あるいは価値付与的な営みである。その教育にとって、参考となる「大人になつたらなりたい職業」についての民間調査の結果が公表された。

「学者・博士」が初めてトップ(男子)

第一生命保険の調査(昨年 7~8 月に未就学児、小学生 991 人を対象にした調査)によれば、「なりたい職業」は、男子では順に、1 位 = 学者・博士、2 位 = サッカー選手、3 位 = 野球選手、4 位 = 食べ物屋、5 位 = 大工、6 位 = 医者、7 位 = 警察官・刑事、8 位 = 消防士・レスキュー隊、9 位 = 宇宙飛行士、同じく 9 位 = 電車・バスの運転手、となっている。

他方、女子は、1 位 = 食べ物屋、2 位 = 看護師、3 位 = 保育士(保母)・幼稚園の先生、4 位 = 花屋、5 位 = 飼育係・ペット屋、6 位 = ピアノの先生・ピアニスト、7 位 = 獣医師、8 位 = 医者、9 位 = マンガ家、10 位 = 学校の先生、である。

男子の「学者・博士」は、前回調査では 8 位だったが、今回初めて第 1 位になったという。女子は、6 年続けて「食べ物屋」が第 1 位である(5 月 3 日『産経新聞』、5 月 4 日『新潟日報』等による)。

「大人になつたらなりたい職業」に託された子どもたちの夢は、どのように生まれ、また教育はその「夢」とどのようにかかわっていくべきか。この調

査結果を一つの参考として、各学校でも自校の児童・生徒について、将来の夢を発達段階に即して確認させ(絵で表現させるもよし、文章記述させるもよし)、そのために今日という 1 日の学びをどう進めるか、児童・生徒に自覚を促す工夫をしたい。

キャリア教育・進路指導の段階的取組み

知られているように、平成 11 年 12 月 16 日、中央教育審議会(旧文部省時代の中教審)は、その答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」において、小学校段階からのキャリア教育(career education)の必要性を指摘した。

キャリア教育といっても、その内容は児童・生徒の標準的および個別的発達段階に配慮して柔軟・弾力的に行われるべきことは解説するまでもないが、キャリア教育への取組みは、各学校の共通課題ととらえ、その基本方針を検討し、確認し、実践に移していただきたい。

小学校では、これまで進路指導あるいはキャリア教育についての組織だった取組みがなされずにきたと思われるが、学習指導要領(平成 10 年 12 月 14 日告示)では、すでに中教審の指摘しているキャリア教育を先取りするかのごとく、児童・生徒の現在および将来の生き方を考える力を育成する取組みの工夫について指摘している。

また、中・高等学校でも、これまでの進路指導を生徒の夢と希望への挑戦に対する教育の取組みと明確に位置づけて、自校の取組みの点検・評価・充実に努めていただきたい。

(わかい・やいち = 上越教育大学教授)

●最新刊・好評発売中! ● 【チェックポイント・学校評価(全 6 巻シリーズ)】 教育開発研究所刊

できるときに、できるところから始めよう! わが校の点検・評価 【編集】木岡一明(国研総括研究官)

NO.1『これからの学校と組織マネジメント』

NO.2「組織設計と協働態勢」(6 月刊)、NO.3「環境把握と地域協働」(8 月刊)、NO.4「職能発達と組織開発」(10 月刊)、NO.5「危機管理とセーフティネット」(12 月刊)、NO.6「指導点検とカリキュラム」(2 月刊)[各 A5 判 220 頁・定価 2415 円]